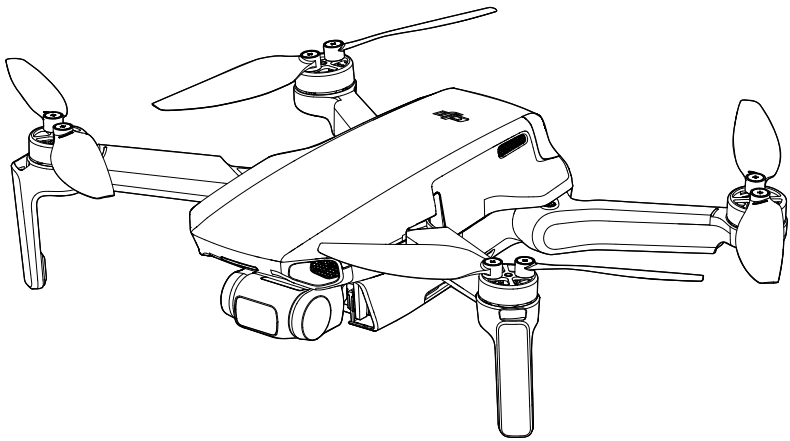
MINI 2

ユーザーマニュアル v1.2 2021.02



キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードを検索して、トピックを見つけます。Adobe Acrobat Reader で本書を閲覧している場合は、Windows では Ctrl+F、Mac では Command+F を押すことで検索を開始できます。

トピックへの移動

目次のトピック一覧をご覧ください。トピックをクリックすると、そのセクションに移動できます。

本書の印刷

本書は高解像度での印刷に対応しています。

本マニュアルの使用方法

凡例

⊘ 警告　　⚠ 重要　　ヒントとコツ　　参考

初めてのフライト前にお読みいただくもの

DJI™ Mini 2 を使用する前に、以下の資料をお読みください。
1. ユーザーマニュアル
2. クイックスタートガイド
3. 免責事項と安全に関するガイドライン

DJI のウェブサイトにあるすべてのチュートリアルビデオの視聴をお勧めします。初回使用前に、免責事項と安全に関するガイドラインをお読みください。初めての飛行に際しては「クイックスタートガイド」をよく読み、詳細に関しては本ユーザーマニュアルを参照してください。

チュートリアルビデオ

以下のアドレスにアクセスするか QR コードをスキャンすると、DJI Mini 2 のチュートリアルビデオを視聴でき、DJI Mini 2 を安全にお使いいただく方法を知ることができます：

http://www.dji.com/mini-2/video

DJI Fly アプリのダウンロード

飛行中は、必ず DJI Fly アプリを使用してください。右側の QR コードをスキャンして、最新版をダウンロードしてください。

Android 版の DJI Fly は、Android v6.0 以降で動作します。iOS 版の DJI Fly は、iOS v11.0 以降で動作します。

* より安全にご使用いただくために、飛行中にこのアプリに接続、ログインしていない場合は、飛行高度が 30 m、飛行範囲が 50 m に制限されます。これは DJI Fly および DJI の機体に対応するすべてのアプリに適用されます。

⚠ この製品の動作環境温度は、0℃ ～ 40℃で、より大きな環境変動に耐えることのできるミリタリーグレードの分野での標準動作環境温度（-55℃ ～ 125℃）の条件を満たしていません。製品を適切に動作させ、そのグレードの動作環境温度範囲の要件を満たしている分野に対してのみ実行してください。

 © 2021 DJI All Rights Reserved.

目次

本マニュアルの使用方法 2
- 凡例 2
- 初めてのフライト前にお読みいただくもの 2
- チュートリアルビデオ 2
- DJI Fly アプリのダウンロード 2

製品の特徴 6
- はじめに 6
- 機体の準備 6
- 送信機の準備 7
- 機体の各部名称 8
- 送信機の各部名称 8
- DJI Mini 2 のアクティベーション 9

機体 11
- フライトモード 11
- 機体ステータスインジケーター 12
- クイック転送 13
- RTH（Return-to-Home：帰還） 14
- ビジョンシステムおよび赤外線検知システム 16
- インテリジェント フライトモード 18
- フライトレコーダー 20
- プロペラ 20
- インテリジェント フライトバッテリー 21
- ジンバル＆カメラ 25

送信機 28
- 送信機の特徴 28
- 送信機の使用 28
- 最適な伝送範囲 32
- 送信機のリンク 32

DJI Fly アプリ 34
- ホーム 34
- カメラビュー 35

© 2021 DJI All Rights Reserved.

飛行 40
飛行環境の条件 40
飛行制限と GEO 区域 40
フライト前チェックリスト 42
自動離陸／自動着陸 42
モーターの始動と停止 43
飛行テスト 43
付録 46
仕様 46
コンパスのキャリブレーション 49
ファームウェアの更新 50
アフターセールス情報 50

 © 2021 DJI All Rights Reserved.

製品の特徴

本セクションでは DJI Mini 2 について紹介し、機体と送信機の各部名称について説明します。

© 2021 DJI All Rights Reserved.

製品の特徴

はじめに

DJI Mini 2 は、249 g 未満（日本版では 199 g）の超軽量折りたたみ式デザインを採用しています。下方ビジョンシステムと赤外線検知システムを搭載した DJI Mini 2 は、屋内だけでなく屋外でもホバリングと飛行を行い、自動的に帰還 (Return-to-Home:RTH) することができます。完全な安定性を実現する 3 軸ジンバルと 1/2.3 インチセンサーカメラを搭載し、DJI Mini 2 は 4K 動画と 12MP の写真撮影が可能です。クイックショットやパノラマなどのインテリジェント フライトモードをご利用いただけます。また、クイック転送やトリムダウンロードを使用することで、写真や動画のダウンロードや編集をより簡単に、効率的に行えます。

DJI Mini 2 には、DJI の長距離伝送技術、OCUSYNC™2.0 を搭載した DJI RC-N1 送信機が付属しています。最大伝送距離は 10 km（日本国内では 6 km）を誇り、最大 720p の動画を、機体からモバイル端末の DJI Fly アプリへ送信し、表示します。送信機は、2.4 GHz と 5.8 GHz の両方で動作し、遅延のない最適な伝送チャンネルを選択できます（日本国内は 2.4 GHz のみ利用可）。機体およびカメラは、送信機ボタンを使用して簡単に制御できます。

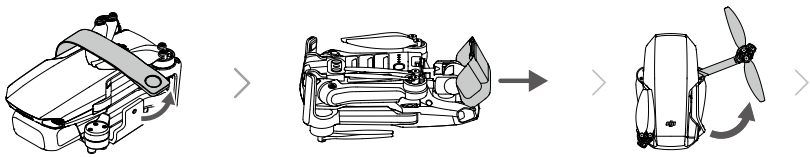
DJI Mini 2 の最大飛行速度は 57.6 km/h で最大飛行時間は 31 分（日本版では 18 分）です。そして送信機の最大動作時間は 6 時間です。

⚠
- 最大飛行時間は、無風状態で速度 17 km/h で飛行させ試験しました。また、最大飛行速度は、無風の海抜約 0m の高度で試験しました。これらの値は参考値です。
- 送信機は、電波干渉のない広く開けた場所で、高度約 120 m で最大伝送距離 (FCC) に達します。最大伝送距離とは、機体が伝送を送受信できる最大距離を指します。機体が 1 回の飛行で飛行できる最大距離を指すものではありません。最大動作時間は、ラボ環境での試験によるもので、モバイル端末の充電時間を含みません。この値は参考値です。
- 5.8 GHz は、一部の地域では対応していません。この周波数帯は、これらの地域では自動的に無効になります。現地の法律および規制を順守してください。

機体の準備

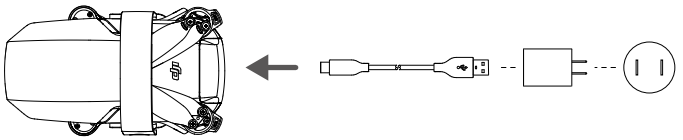
梱包時には、機体のすべてのアームは折りたたんだ状態です。以下の手順に従って、機体を展開してください。

1. プロペラホルダーを取り外します。
2. カメラからジンバル プロテクターを取り外します。
3. 以下に示すように、前方アーム、後方アーム、すべてのプロペラの順で展開します。



 © 2021 DJI All Rights Reserved.

4. すべてのインテリジェント フライトバッテリーは、安全のためにハイバネーション モードで出荷されています。初めて使用する際は、USB 充電器を使用して、インテリジェント フライトバッテリーを充電してアクティベーションしてください。

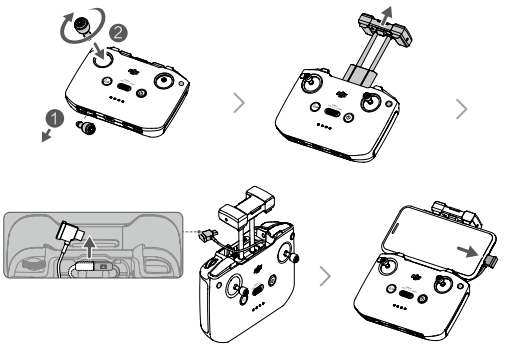


- ジンバルを保護するためにジンバル プロテクターを取り付け、機体が使用されていないときはプロペラホルダーを使用してプロペラを固定することをお勧めします。

- プロペラホルダーと USB 充電器はコンボパッケージにのみ含まれています。
- 前方のアームを広げてから、後方のアームを広げます。
- ジンバル プロテクターを取り外し、すべてのアームを広げてから、機体の電源を入れてください。この手順に従わないと、機体の自己診断テストに影響が出る恐れがあります。

送信機の準備

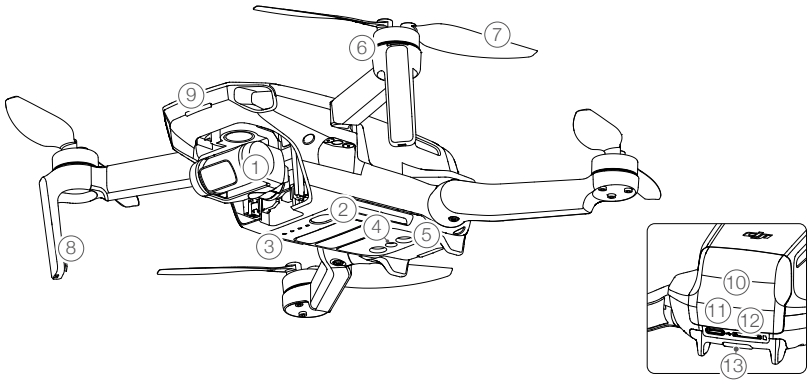
1. 操作スティックを送信機の収納スロットから取り外し、所定の位置にねじって取り付けます。
2. モバイル端末ホルダーを引き出します。モバイル端末の種類に合わせて、適切な送信機ケーブルを選択してください。Lightning コネクターケーブル、Micro USB ケーブルと USB-C ケーブルが同梱されています。送信機ロゴのない方のケーブルの端をモバイル端末に接続します。モバイル端末がしっかり固定されていることを確認してください。



- Android モバイル端末を使用しているときに USB 接続プロンプトが表示された場合は、［充電のみ］を選択してください。この手順に従わないと、接続に失敗することがあります。

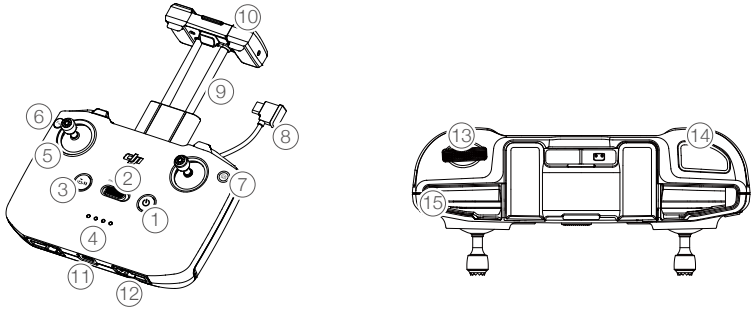
© 2021 DJI All Rights Reserved.

機体の各部名称



1. ジンバル＆カメラ
2. 電源ボタン
3. バッテリー残量 LED
4. 下方ビジョンシステム
5. 赤外線検知システム
6. モーター
7. プロペラ
8. アンテナ
9. フロント LED
10. バッテリー収納部カバー
11. USB-C ポート
12. microSD カードスロット
13. 機体ステータスインジケーター／クイック転送ボタン

送信機の各部名称



1. 電源ボタン
   ボタンを 1 回押すと、現在のバッテリー残量を確認できます。ボタンを 1 回押し、次に長押しすると、送信機の電源オン／オフを切り替えられます。
2. フライトモードスイッチ
   スポーツ、ノーマル、シネモードを切り替えます。
3. 飛行一時停止／ RTH（Return-to-Home）ボタン
   ボタンを 1 回押すと機体にブレーキがかり、その場でホバリングを行います（GPS または下方ビジョンシステムが利用可能な場合のみ）。このボタンを長押しすると、RTH を起動します。機体は最後に記録されたホームポ

 © 2021 DJI All Rights Reserved.

イントへ戻ります。再度押すと、RTH はキャンセルされます。

4. バッテリー残量インジケーター
送信機の現在のバッテリー残量を表示します。

5. 操作スティック
操作スティックを使用して、機体の動きを制御します。DJI Fly の操作スティックモードを設定します。操作スティックは、着脱可能で簡単に収納できます。

6. カスタムボタン
1 回押すと、ジンバルを再センタリングする、もしくはジンバルを下方に傾けます（デフォルト設定）。このボタンは DJI Fly で設定できます。

7. 写真／動画の切り替え
1 回押すと、写真モードと動画モードを切り替えます。

8. 送信機ケーブル
送信機ケーブルを介してビデオリンクするモバイル端末に接続します。モバイル端末の種類に合ったケーブルを選択してください。

9. モバイル端末ホルダー
モバイル端末を送信機にしっかりと取り付けるために使用します。

10. アンテナ
機体制御信号と動画無線信号を中継します。

11. USB-C ポート
送信機の充電や送信機とパソコンとの接続のために使用します。

12. 操作スティック収納スロット
操作スティックの収納用です。

13. ジンバルダイヤル
カメラのチルトを操作します。カスタムボタンを長押したまま、ジンバルダイヤルを使用すると、動画モードでズームを調整します。

14. シャッター／録画ボタン
1 回押すと、写真を撮影するか、録画を開始／停止します。

15. モバイル端末スロット
モバイル端末を固定するために使用します。

DJI Mini 2 のアクティベーション

初めて使用する前に、DJI Mini 2 をアクティベーションする必要があります。機体と送信機の電源を入れた後、DJI Fly で画面上の指示に従って DJI Mini 2 をアクティベーションします。アクティベーションにはインターネット接続が必要です。

© 2021 DJI All Rights Reserved.

機体

DJI Mini 2 は、フライトコントローラー、動画ダウンリンクシステム、ビジョンシステム、推進システム、インテリジェント フライトバッテリーで構成されています。

 © 2021 DJI All Rights Reserved.

機体

DJI Mini 2 は、フライトコントローラー、動画ダウンリンクシステム、ビジョンシステム、推進システム、インテリジェント フライトバッテリーで構成されています。

フライトモード

DJI Mini 2 には、3 つのフライトモード、加えて特定のシナリオで機体のモードが切り替わる第 4 のフライトモードがあります。送信機のフライトモードスイッチを使用して、フライトモードを切り替えることができます。

ノーマルモード（N モード）：機体は GPS と下方ビジョンシステムを使用して、自らの位置を把握しながら安定します。このモードでは、インテリジェント フライトモードが有効になります。GPS 信号が強いときには機体は GPS を使用して機体自身の位置を測位し、安定化を行います。GPS 信号が弱く、周囲が十分に明るいときには、機体は下方ビジョンシステムを使用して機体自身の位置を測位し、安定化を行います。下方ビジョンシステムが有効で、十分に明るい場合、最大飛行高度角度は 25°、最大速度は 10m/s です。

スポーツモード（S モード）：スポーツモードでは、機体は GPS と下方ビジョンシステムを使用して、測位します。スポーツモードでは、敏捷性と速度に対する機体の反応性が最適化され、操作スティックの動きへの反応がより機敏になります。最大飛行速度は 16 m/s、最大上昇速度は 5 m/s、最大下降速度は 3.5 m/s です。

シネモード（C モード）：シネモードはノーマルモードに基づいていますが、飛行速度が制限されるため、撮影中の機体はより安定します。最大飛行速度は 6 m/s、最大上昇速度は 2 m/s、最大下降速度は 1.5 m/s です。

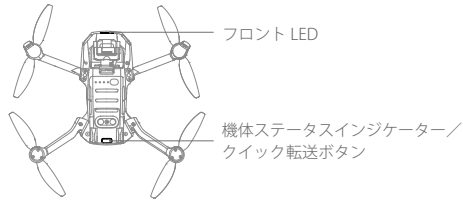
下方ビジョンシステムが利用できないか無効になっている場合、かつ GPS 信号が弱いかコンパスが干渉を受けている場合、機体は自動的に姿勢モード（ATTI モード）に切り替わります。下方ビジョンシステムが利用できない場合、機体は自動的に位置調整やブレーキをかけることができず、飛行事故のリスクが大きくなります。ATTI モードでは、機体は周囲環境の影響をより受けやすくなります。風などの環境要因によって水平方向に移動することがあり、狭いスペースを飛行している際は特に危険を招くおそれがあります。

⚠
- スポーツモードでは、機体の最大速度が向上し、制動距離が著しく増加します。無風状態の場合、制動距離は少なくとも 30 m 必要です。
- スポーツモードでは、下降速度が著しく増加します。無風状態の場合、制動距離は少なくとも 10 m 必要です。
- スポーツモードでは、機体の応答性が著しく向上します。そのため、送信機の操作スティックをわずかに動かしただけでも、機体は大きく移動します。飛行中は細心の注意を払い、十分な飛行スペースを確保するようにしてください。
- ノーマルモードまたはシネモードの動画モードでは、ジンバルのピッチが -90°または 0°に近い場合、撮影を安定させるために飛行速度が制限されます。強風の場合は、機体の風圧抵抗を向上させるために速度制限を無効にします。その結果、録画中にジンバルが振動することがあります。

© 2021 DJI All Rights Reserved.

機体ステータスインジケーター

DJI Mini 2 には、フロント LED と機体ステータスインジケーターがあります。



フロント LED は機体の向きを示し、機体の電源がオンになると白く点滅します。

フロント LED の状態

電源がオンの場合		
Ⓦ ——	白色にパルス点滅	デフォルトの状態（DJI Fly でカスタム可能）
Ⓑ ……	青色にゆっくり点滅	Wi-Fi 接続と OcuSync 2.0 動画伝送接続の切替中
Ⓑ ——	青色にパルス点滅	Wi-Fi 接続に切り替わり、モバイル端末への接続を待機中
Ⓑ ——	青色に点灯	Wi-Fi 接続に切り替わり、モバイル端末へ接続済
Ⓑ ……	青色にすばやく点滅	Wi-Fi 接続に切り替わり、高速ダウンロード中
Ⓡ ——	赤色に点灯	Wi-Fi 接続への切り替え失敗
Ⓡ ……	赤色にゆっくり点滅	[ドローンを探す] 機能の使用中に ESC がビープ音を鳴らしている
電源がオフの場合		
Ⓦ ——	白色にパルス点滅	充電中
Ⓦ ——	白色に点灯	充電完了

クイック転送ボタンを長押しすると、クイック転送モード（Wi-Fi 接続）とフライトモード（OcuSync 2.0 動画伝送接続）が切り替わります。ファームウェアが v1.1.0.0 以降に更新されていない場合は、クイック転送ボタンを 2 回押します。

⚠
- Wi-Fi 接続から OcuSync2.0 動画伝送接続に切り替えたときに、フロント LED がゆっくりと青色に点滅し続ける場合は、切り替えに失敗したことを示しています。その場合は、機体を再起動してください。機体は、再起動後、デフォルトでフライトモード（OcuSync 2.0 動画伝送接続）に入ります。

機体ステータスインジケーターは機体の飛行制御システムの状態を示します。機体ステータスインジケーターについての詳細は、下表を参照してください。

機体ステータスインジケーターの状態

通常の状態		
Ⓡ Ⓨ Ⓖ Ⓑ Ⓟ ……	赤色、黄色、緑色、青色、紫色に交互に点滅	電源がオンになり、自己診断テストを実行

 © 2021 DJI All Rights Reserved.

Ⓟ ……	紫色にゆっくりと点滅	ウォーミング アップ
Ⓖ ……	緑色にゆっくり点滅	GPS 有効化
Ⓖ × 2……	緑色に 2 回点滅を繰り返す	下方ビジョンシステムが有効
Ⓨ ……	黄色にゆっくりと点滅	GPS および下方ビジョンシステムが無効（ATTI モードが有効）
Ⓖ ……	緑色にすばやく点滅	制動中
警告の状態		
Ⓨ ……	黄色にすばやく点滅	送信機の信号ロスト
Ⓡ ……	赤色にゆっくりと点滅	ローバッテリー
Ⓡ ……	赤色にすばやく点滅	極度のローバッテリー
Ⓡ ……	赤色に点滅	IMU エラー
Ⓡ ——	赤色に点灯	重大なエラー
Ⓡ Ⓨ ……	赤色と黄色に交互に点滅	コンパス キャリブレーションが必要

クイック転送

DJI Mini 2 は Wi-Fi 経由でモバイル端末に直接接続できるため、送信機を使わず、DJI Fly を介して、機体からモバイル端末に写真や動画をダウンロードできます。最大 20 MB/s の伝送速度で、より高速かつ便利なダウンロードが楽しめます。

使用方法

方法 1：モバイル端末が送信機に接続されていない場合

1. 機体の電源を入れて、機体の自己診断テストが完了するまで待ちます。クイック転送ボタンを 2 秒間長押しして、クイック転送モードに切り替えます（ファームウェアが v1.1.0.0 に更新されていない場合は、機体ステータスインジケーターを 2 回押します）。切り替えが成功すると、フロント LED がゆっくりと青色に点滅してから、青色にパルス点滅します。
2. モバイル端末で Bluetooth と Wi-Fi が有効になっていることを確認してください。DJI Fly を起動すると、機体に接続するためのプロンプトが自動的に表示されます。
3. [接続] をタップします。接続に成功すると、機体のファイルにアクセスでき、高速ダウンロードが可能になります。初めてモバイル端末を機体に接続する時、クイック転送ボタンを押して、接続を確定する必要があります。

方法 2：モバイル端末が送信機に接続されている場合

1. 機体が送信機を介してモバイル端末に接続されており、モーターが始動していないことを確認してください。
2. モバイル端末で Bluetooth と Wi-Fi を有効にします。
3. DJI Fly を起動し、再生画面に入り、右上のをタップすると、機体のファイルにアクセスでき、高速ダウンロードが可能になります。

© 2021 DJI All Rights Reserved.

- 最大ダウンロードレートは、5.8 GHz 周波数が法律および規制によって許可されている国や地域で、5.8 GHz 周波数帯域と Wi-Fi 接続に対応したデバイスを、干渉や障害物のない環境で使用する場合にのみ実現できます。5.8 GHz が現地の規制で許可されていない場合（日本など）、ユーザーのモバイル端末は 5.8 GHz の周波数帯域に対応しないか、強い干渉が受ける可能性があります。このような状況では、クイック転送は自動的に 2.4 GHz 周波数帯域に切り替わり、最大ダウンロード速度は 6 MB/s に低下します。
- クイック転送を使用する前に、モバイル端末で Bluetooth と Wi-Fi および位置情報サービスが有効になっていることを確認してください。
- クイック転送を使用する場合、接続するためにモバイル端末の設定ページで Wi-Fi パスワードを入力する必要はありません。機体をクイック転送に切り替えた後、DJI Fly を起動すると、機体を接続するプロンプトが表示されます。
- 機体は、再起動後、デフォルトで自動的にフライトモードになります。必要に応じて、手動でクイック転送に切り替えてください。
- 干渉や障害物のない環境でクイック転送を使用し、無線ルーター、Bluetooth スピーカー、ヘッドホンなどの干渉源に近づかないでください。

RTH（Return-to-Home：帰還）

GPS 信号が強力な場合、RTH（Return-to-Home：帰還）機能により、機体は最後に記録されたホームポイントに戻り、着陸します。RTH には 3 種類あります。スマート RTH、ローバッテリー RTH、フェールセーフ RTH です。機体がホームポイントを正常に記録し、GPS 信号が強力な場合、ユーザーがスマート RTH を起動した時、機体のバッテリー残量が少ない時、または送信機と機体間の信号が失われた時に、RTH が起動します。動画伝送が中断したなどの他の異常が発生した場合にも、RTH が起動します。

	GPS	説明
ホームポイント	10	デフォルトのホームポイントは、強い GPS 信号またはやや強い GPS 信号（白いアイコンで表示）を機体が最初に受信した場所です。ホームポイントが記録されると、機体ステータスインジケーターが緑色に素早く点滅します。

スマート RTH

十分に強い GPS 信号を受信している場合は、スマート RTH を使用して機体をホームポイントに戻すことができます。DJI Fly でをタップするか送信機の RTH ボタンを長押しすることで、スマート RTH を起動します。DJI Fly でをタップするか送信機の RTH ボタンを押すことで、スマート RTH を終了できます。

ローバッテリー RTH

インテリジェント フライトバッテリーの残量が低すぎて、帰還に必要な電力がない場合は、できるだけ早く機体を着陸させてください。電力がなくなると、機体は墜落し、機体が損傷したり、その他の事故を引き起こす可能性があります。

電力不足による不必要な危険を回避するために、DJI Mini 2 は、現在地に基づいて、バッテリー残量が帰還するのに十分であるかどうかを判断します。バッテリー残量が安全な帰還に必要な最低レベルに達すると、ローバッテリー RTH が起動します。

送信機の RTH ボタンを押すことで RTH をキャンセルできます。ローバッテリー残量（バッテリー残

 © 2021 DJI All Rights Reserved.

量低下）警告が出た後に RTH をキャンセルすると、インテリジェント フライトバッテリーの残量不足で安全に着陸できず、墜落したり紛失したりするおそれがあります。

バッテリー残量が極度に少ない場合、機体は自動的に着陸します。この着陸動作はキャンセルできませんが、送信機を使用して降下速度を下げたり、機体の方向を調整したりすることはできます。

現在の高度から直接下降するだけのバッテリー残量しかない場合は、機体は自動的に着陸します。この着陸動作はキャンセルできませんが、送信機を使用して機体の方向を操作できます。

フェールセーフ RTH

ホームポイントが正しく記録され、コンパスが正常に動作している場合、送信機信号ロストの時間が 11 秒を超えると、フェールセーフ RTH が自動的に起動します。

ファームウェアが v1.1.0.0 以降に更新されている場合、機体は元の飛行ルート上を 50 m 後方に飛行し、事前設定された RTH 高度まで上昇し、直線 RTH を開始します。フェールセーフ RTH 中に送信機信号が復元された場合は、機体は直線 RTH を開始します。機体が元の飛行経路に沿って後方に飛行し、ホームポイントからの距離が 20 m 未満になった場合、機体は元の飛行ルートに沿った後方飛行を停止し、現在の高度で直線 RTH を開始します。

DJI Fly で、送信機信号が失われたときの機体の応答方法の設定を変更できます。設定で着陸またはホバリングが選択されている場合、機体はフェールセーフ RTH を実行しません。

その他の RTH 適用シナリオ

送信機がまだ機体の動きを制御できる状態で飛行中にビデオリンクの信号が失われた場合は、RTH を開始するようにプロンプトが表示されます。RTH はキャンセルすることができます。

RTH の手順（直線）

1. ホームポイントが記録されます。
2. RTH が起動します。
3. RTH の開始時に機体がホームポイントから 20 m 未満にある場合、機体はその場でホバリングし、帰還しません（ファームウェアバージョン v1.1.0.0 が必要です。それ以外の場合、機体はすぐに着陸します）。

   RTH の開始時に機体がホームポイントから 20 m 以上離れている場合、機体は 10.5 m/s の水平速度で帰還します。
4. 機体はホームポイントに到達すると、着陸してモーターを停止します。

⚠
- GPS 信号が弱いまたは利用不可の場合、機体はホームポイントに戻れないことがあります。RTH が起動された後に GPS 信号が弱くなるか使用できなくなると、機体はしばらくその場でホバリングしてから着陸します。
- 飛行の前には、その都度、適切な RTH 高度を設定してください。DJI Fly を起動して、RTH 高度を設定します。スマート RTH およびローバッテリー RTH では、機体の現在の高度が RTH 高度よりも低い場合、機体はまず自動的に RTH 高度まで上昇します。現在の高度が RTH 高度に達しているか、それよりも高い場合、機体は現在の高度でホームポイントに向かいます。
- 機体が 20 m 以上の高度にあり、まだ RTH 高度に達していない場合は、スロットルスティックを動かして機体の上昇を停止すると、現在の高度でホームポイントに向かいます（ファームウェア v1.0.0.0 でのみ使用できます。この機能は、ファームウェアが v1.1.0.0 以降に更新されている場合は使用できません）。

© 2021 DJI All Rights Reserved.

⚠
- RTH 中、送信機信号が正常な場合、送信機を使用して機体の速度、高度、向きを制御できます。ただし、送信機を使用して左右にパンすることはできません。機体が上昇中または前方に飛行している場合、操作スティックを反対方向に最後まで倒すと、機体はその場でホバリングします。
- GEO 区域は RTH に影響します。RTH 中に機体が GEO 区域内に入ったときには GEO 区域から出るまで下降し、ホームポイントまで飛行し続けるか、高度制限により、その場でホバリングします。
- 風速が大きすぎると、機体はホームポイントに戻ることができない場合があります。慎重に飛行させてください。

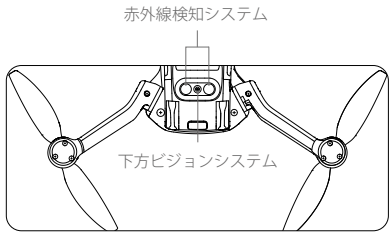
着陸保護

着陸保護機能は、スマート RTH 中に有効になります。

1. 着陸保護中、地面が着陸に適していると機体が判断すると、注意深く着陸します。
2. 地面が着陸に適していないと判断された場合には、DJI Mini 2 はその場でホバリングして、パイロットの確認を待ちます。
3. 着陸保護機能が作動しない場合、機体が地表 0.5m 未満まで下降すると、DJI Fly が着陸プロンプトを表示します。[確認] をタップするか、スロットルスティックを下に倒して着陸します。

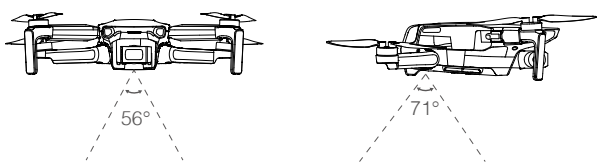
ビジョンシステムおよび赤外線検知システム

DJI Mini 2 には、下方ビジョンシステムおよび赤外線検知システムが搭載されています。下方ビジョンシステムは 1 個のカメラで構成され、赤外線検知システムは 2 個の 3D 赤外線モジュールで構成されています。下方ビジョンシステムと赤外線検知システムは、GPS を利用できない室内やその他の環境下で飛行するために、機体が現在位置を維持し、より正確にホバリングできるようにします。



検知領域

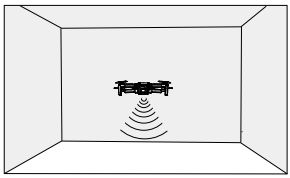
下方ビジョンシステムは、機体が高度 0.5 ～ 10 m にあり、その動作範囲が 0.5 ～ 30 m の場合に最も効果的に動作します。



 © 2021 DJI All Rights Reserved.

ビジョンシステムの使用

GPS を使用できない場合、地面の質感がはっきりしていて、十分な明るさがあるときは、下方ビジョンシステムが有効になります。下方ビジョンシステムは、機体が高度 0.5 ～ 10m にある場合に最も効果を発揮します。機体の高度が 10 m を超える場合は、ビジョンシステムが影響を受ける場合があります。細心の注意が必要です。



下方ビジョンシステムを使用するには、次の手順に従ってください。

1. 機体がノーマルモードあるいはシネモードであることを確認します。機体の電源を入れます。
2. 離陸後、機体はその場でホバリングします。機体ステータスインジケーターが緑色で 2 回点滅し、下方ビジョンシステムが動作していることを示します。

⚠
- 飛行環境に注意してください。下方ビジョンシステムおよび赤外線検知システムは、限られた条件下でのみ機能し、人による操作と判断に取って代わることはできません。飛行中は、常に周囲の環境と DJI Fly の警告に注意を払い、責任を持って機体の操作にあたってください。
- GPS が利用可能な場合、機体の最大ホバリング高度は 5 m です。
- 機体が水面上を飛行している場合、下方ビジョンシステムが適切に機能しないことがあります。そのため、着陸時に、機体が機体下の水面を完全に回避できない場合があります。常に飛行を制御し続け、周囲の環境に基づいて合理的な判断を下し、下方ビジョンシステムに完全に依存しないようにしてください。
- 機体が過度に高速で飛行している場合は、下方ビジョンシステムおよび赤外線検知システムが適切に機能しないことがあるのでご注意ください。赤外線検知システムは、飛行速度が 12 m/s 以下の場合にのみ有効になります。
- 下方ビジョンシステムは、はっきりとしたパターンの変化がない地表の上空または照明が不十分である場合、適切に機能しません。下方ビジョンシステムは、次のような状況では適切に機能しません。機体を注意深く操作してください。
  a) モノクロ（黒一色、白一色、緑一色など）の地表面上を飛行している場合。
  b) 反射率が高い地表面上を飛行している場合。
  c) 水面または透明な地表面上を飛行している場合。
  d) 動く面または物体の上空を飛行している場合。
  e) 明るさが頻繁に、または急激に変わるエリアを飛行している場合。
  f) 非常に暗い（10 ルクス未満）または非常に明るい（40,000 ルクス超）地表面上を飛行している場合。
  g) 赤外線を強力に反射または吸収する地表面（鏡など）の上空を飛行している場合。
  h) はっきりした模様や構造のない地表面上を飛行している場合（電柱など）。
  i) 同じ模様や構造が繰り返し現れる（同じデザインのタイルなど）地表面上を飛行している場合。
  j) 表面積の小さい障害物（木枝など）上を飛行している場合。

© 2021 DJI All Rights Reserved.

⚠
- センサーは常にきれいな状態に保ってください。センサーを覆ったり、遮ったりしないでください。ほこりや湿気のある環境では、使用しないでください。赤外線検知システムを遮断しないでください。
- 雨や霧、または視界が不明瞭な日には飛行しないでください。
- 離陸前に必ず以下を確認してください。
  a) 赤外線検知システムや下方ビジョンシステムにステッカーが貼られていないことや、その他の障害物がないことを確認します。
  b) 赤外線検知システムや下方ビジョンシステムに汚れや埃、水が付いている場合は、柔らかい布で拭き取ります。アルコールを含む洗浄剤は使用しないでください。
  c) 赤外線検知システムおよび下方ビジョンシステムのガラスに傷などがある場合は、DJI サポートにお問い合わせください。

インテリジェント フライトモード

クイックショット

クイックショット撮影モードには、ドローニー、ロケット、サークル、ヘリックス、ブーメランがあります。DJI Mini 2 は、選択した撮影モードに従って録画し、短編動画を自動的に生成します。動画は再生画面で表示、編集したり、SNS で共有したりできます。

ドローニー : 機体は、対象にカメラをロックした状態で後上方に飛行します。

ロケット : 機体は、カメラを下に向けた状態で上昇します。

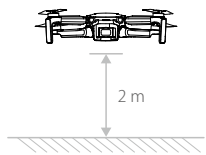
サークル : 機体は、被写体周囲を旋回します。

ヘリックス : 機体は、被写体周囲をスパイラル状に上昇しながら旋回します。

ブーメラン：機体は楕円を描きながら始点から離れる時に上昇し、下降しながら始点に戻るパターンで対象の周りを旋回します。機体の始点は楕円の長軸の一端を形成し、長軸のもう一方の端は始点から見て被写体の反対側にあります。ブーメラン機能を使用する時は十分なスペースを確保してください。機体の周囲は半径 30 m 以上、上空は 10 m 以上必要です。

クイックショットの使用

1. インテリジェント フライトバッテリーが十分に充電されていることを確認してください。離陸したら、地上から 2m 以上の高さでホバリング状態にします。



 © 2021 DJI All Rights Reserved.

2. DJI Fly で撮影モードアイコンをタップし、［クイックショット] を選択し、指示に従います。撮影モードの使用方法を理解していること、および周囲に障害物がないことを確認してください。

3. 撮影モードを選択し、カメラビューで対象を選択（対象上の円をタップするか対象の周りをドラッグしてボックスを作成）して、[開始] をタップして録画を開始します。撮影が終了すると機体は元の位置に飛行して戻ります。
4. をタップして、短編動画または元の動画にアクセスします。動画はダウンロードした後、編集したり、SNS で共有したりできます。

クイックショットの終了

飛行一時停止／ RTH ボタンを 1 回押すか、DJI Fly でをタップしてクイックショットを終了します。機体はその場でホバリングします。

- クイックショットは、建物などの障害物がない場所で使用してください。飛行経路上に人間、動物、その他の障害物がないことを必ず確認してください。
- 機体周辺の物に注意し、送信機を使用して機体の衝突を回避してください。
- 次の状況ではクイックショットを使用しないでください。
  a) 被写体が長時間遮られているか目視外にある場合。
  b) 被写体が機体から 50 m 以上離れている場合。
  c) 被写体の色や模様が周囲と似ている場合。
  d) 被写体が空中にある場合。
  e) 被写体が速く動いている場合。
  f) 照明が非常に暗い（300 ルクス未満）、または非常に明るい（10,000 ルクス超）場合。
- 建物の近くや GPS 信号が弱い場所でクイックショットを使用しないでください。そのような場合は、飛行経路が不安定になります。
- クイックショットを使用する場合は、必ず現地のプライバシー法令に従ってください。

© 2021 DJI All Rights Reserved.

フライトレコーダー

フライトテレメトリ、機体のステータス情報、その他のパラメーターなどの飛行データは、機体内蔵のデータレコーダーに自動的に保存されます。DJI Assistant 2（一般向けドローンシリーズ）を使用して、データにアクセスできます。

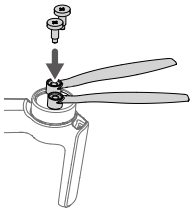
プロペラ

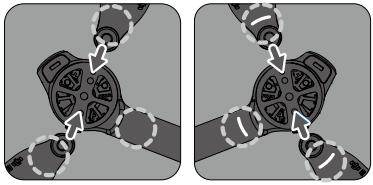
DJI Mini 2 のプロペラには 2 種類あり、それぞれ別の方向に回転するように設計されています。記載されているマークは、どのモーターに取り付けるべきかを示しています。1 つのモーターに取り付ける 2 つのブレードは同じものです。

プロペラ	マークあり	マークなし
イラスト		
搭載位置	マークありのアームのモーターに取り付ける	マークなしのアームのモーターに取り付ける

プロペラの取り付け

マークのあるプロペラは、同じくマークのあるアームのモーターに取り付け、マークのないプロペラは、同じくマークのないアームのモーターに取り付けます。ドライバーを使用して、プロペラを取り付けます。プロペラがしっかり固定されていることを確認してください。





マークなし　　マークあり

プロペラの取り外し

ドライバーを使用して、プロペラをモーターから取り外します。

⚠
- プロペラブレードは先端が鋭くなっています。注意して扱ってください。
- ドライバーは、プロペラの取り付けにのみ使用します。ドライバーを使用して機体を分解しないでください。
- プロペラが破損している場合は、対応するモーターのプロペラ（2 つ）とねじ（2 つ）を取り外して廃棄します。同じパッケージに同梱されているプロペラを使用してください。他のパッケージのプロペラと混ぜないでください。
- DJI 公式のプロペラのみを使用してください。複数の種類のプロペラを一緒に使用しないでください。
- 必要があればプロペラを別途購入してください。

 © 2021 DJI All Rights Reserved.

- 飛行前に、毎回プロペラが正しくしっかりと取り付けられていることを確認してください。飛行時間 30 時間（約 60 回分のフライト）ごとに、プロペラのネジの締め付けが十分であるかどうかを確認してください。
- 各飛行ごとに、すべてのプロペラが良好な状態であることを確認してください。古くなったり、欠けたり、損傷したプロペラは使用しないでください。
- 怪我を避けるために、回転中のプロペラやモーターから離れてください。
- 保管時は、機体を正しく配置してください。プロペラの固定にはプロペラホルダーの使用をお勧めします。移動または保管中にプロペラをひねったり、折り曲げたりしないでください。
- モーターがしっかりと取り付けられ、スムーズに回転することを確認してください。モーターが止まって自由に回転しない場合は、直ちに機体を着陸させてください。
- モーターを改造しないでください。
- 飛行後、モーターが高温になっていることがあるため、モーターに触れたり、手や体が接触したりしないようにしてください。
- モーターまたは機体の通気口を塞がないでください。
- 電源をオンにした時、ESC の動作音に異常がないことを確認してください。

インテリジェント フライトバッテリー

DJI Mini 2 のインテリジェント フライトバッテリーは、スマートな充放電機能を搭載した 7.7V、2250mAh バッテリーです。（日本版は 7.6V、1065mAh バッテリー）

バッテリーの機能

1. バランス充電：充電時、バッテリーセルの電圧は自動でバランス調整されます。
2. 過充電保護：バッテリーが完全に充電されると、充電は自動的に停止します。
3. 温度検知：損傷を防ぐために、バッテリーは、温度が 5℃～ 40℃の場合にのみ充電されます。充電プロセス中にバッテリーの温度が 50℃を超えると、充電は自動的に停止します。
4. 過電流保護：過電流が検知されるとバッテリーの充電は停止されます。
5. 過放電保護：飛行で使用されている場合を除いて、バッテリーの放電は自動的に停止して過放電を防ぎます。飛行で使用されている場合、バッテリーの過放電保護は無効です。
6. 短絡保護：短絡が検知されると、電源が自動的に遮断されます。
7. バッテリーセルの損傷保護：DJI Fly は、損傷したバッテリーセルを検知すると警告プロンプトを表示します。
8. ハイバネーション モード：バッテリーセルの電圧が 3.0V 未満、またはバッテリー残量が 10%未満の場合、バッテリーはハイバネーション モードに入り、過放電を防止します。バッテリーを充電すると、ハイバネーション モードから復帰します。
9. 通信：バッテリーの電圧、容量、電流に関する情報は、機体に送信されます。

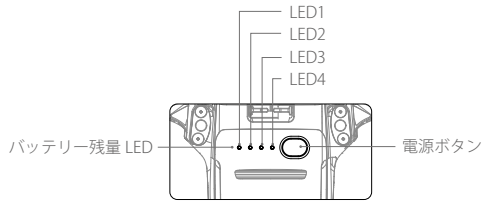
- ご使用の前に、DJI Mini 2 の免責事項と安全に関するガイドラインとバッテリーのステッカーをご確認ください。ユーザーはすべての使用と操作に対する責任を負うものとします。
- DJI Mini 2 インテリジェント フライトバッテリーは自動放電できません。バッテリーを 10 日以上使用しない場合は、バッテリー残量が 40%～ 60%の間になるまで手動放電することをお勧めします。
- 日本版のインテリジェント フライトバッテリーの仕様は異なります。詳しくは、仕様のセクションを参照してください。バッテリー機能は、DJI Mini 2 インテリジェント フライトバッテリーのすべてのバージョンで同じです。

© 2021 DJI All Rights Reserved.

バッテリーの使用

バッテリー残量の確認

電源ボタンを 1 回押して、バッテリー残量を確認します。



バッテリー残量インジケーターは、充電中および放電中のフライトバッテリーの残量を表示します。インジケーターのステータスは次のように定義されます。

●LED 点灯。☼LED 点滅。○LED 消灯。

LED1	LED2	LED3	LED4	バッテリー残量
●	●	●	●	バッテリー残量 > 88%
○	●	●	☼	75% < バッテリー残量 ≤ 88%
●	●	●	○	63% < バッテリー残量 ≤ 75%
○	●	☼	○	50% < バッテリー残量 ≤ 63%
●	●	○	○	38% < バッテリー残量 ≤ 50%
○	☼	○	○	25% < バッテリー残量 ≤ 38%
●	○	○	○	13% < バッテリー残量 ≤ 25%
☼	○	○	○	0% < バッテリー残量 ≤ 13%

電源のオン／オフ

電源ボタンを 1 回押し、次に 2 秒間長押しするとバッテリーの電源オン／オフを切り替えられます。機体の電源を入れると、バッテリー残量 LED にバッテリー残量が表示されます。

電源ボタンを 1 回押すと、4 つのバッテリー残量 LED が 3 秒間点滅します。電源ボタンを押していないのに LED3 と 4 が同時に点滅する場合は、バッテリーが異常であることを示しています。インテリジェント フライト バッテリーを再度挿入し、しっかり取り付けられていることを確認してください。

低温注意

1. 低温環境（0℃ ～ 5℃）で飛行すると、バッテリー容量は著しく減少します。バッテリーを暖める場合、機体をその場でホバリングさせることを推奨します。離陸の前には、必ずバッテリーが完全に充電されていることを確認してください。
2. バッテリーが本来の性能を発揮するために、バッテリー温度を 20℃以上に維持してください。

 © 2021 DJI All Rights Reserved.

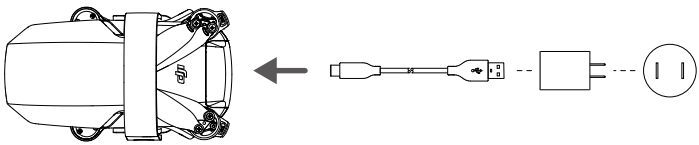
3. 低温環境でバッテリー容量が減少すると、機体の風速抵抗の性能が低下するため、細心の注意が必要です。慎重に飛行させてください。
4. 海抜の高いところでの飛行にはさらに注意が必要です。

⚠ • 低温環境では、バッテリーをバッテリー収納部に装填して、離陸する前に機体の電源を入れ、ウォームアップするようにしてください。

バッテリーの充電

インテリジェント フライトバッテリーは、初めて使用する前に完全に充電してください。

1. USB 充電器を AC 電源（100-240V、50/60Hz）に接続します。必要に応じて電源アダプターを使用してください。
2. 機体を USB 充電器に取り付けます。
3. 充電中、バッテリー残量 LED は現在のバッテリー残量を表示します。
4. バッテリー残量 LED がオンになったら、インテリジェント フライトバッテリーの充電は完了です。バッテリーが完全に充電されたら、USB 充電器を取り外します。



⚠ • 機体の電源が入っている場合、バッテリーは充電できません。充電中、機体の電源を入れることはできません。
• 飛行直後はインテリジェント フライトバッテリーを充電しないでください。高温になっている場合があります。常温になるまで待って、充電してください。
• バッテリーセルの温度が動作範囲（5℃～ 40℃）内でない場合、充電器はバッテリーの充電を停止します。推奨する充電温度範囲は 22℃～ 28℃です。
• バッテリー充電ハブ（別売）を使用すると、最大 3 個のバッテリーを充電できます。バッテリー充電ハブの詳細については、公式 DJI オンラインストアをご覧ください。
• バッテリーを良好な状態に保つために、少なくとも 3 ヵ月に 1 回はバッテリーを完全に充電してください。
• ファームウェアが v1.1.0.0 以降に更新されている場合は、QC2.0 または PD2.0 の USB 充電器を使用して充電することをお勧めします。DJI は、指定された要件を満たしていない充電器の使用によって生じた損害については責任を負いません。

• DJI 18W USB 充電器を使用する場合、充電時間は約 1 時間 22 分です。（日本版は約 47 分）
• 移動中または保管中は、インテリジェント フライトバッテリーを 30%以下に放電しておくことをお勧めします。このようにするには、バッテリー残量が 30%未満になるまで機体を屋外で飛行させます。

© 2021 DJI All Rights Reserved.

下の表は、充電中のバッテリー残量を示しています。

LED1	LED2	LED3	LED4	バッテリー残量
☼	☼	○	○	0% < バッテリー残量 ≤ 50%
☼	☼	☼	○	50% < バッテリー残量 ≤ 75%
☼	☼	☼	☼	75% < バッテリー残量 < 100%
●	●	●	●	充電完了

- 使用している USB 充電器によって、バッテリー残量 LED の点滅頻度は異なります。充電速度が高速な場合、バッテリー残量 LED が素早く点滅します。充電速度が極端に遅い場合、バッテリー残量 LED がゆっくり点滅します（2 秒に 1 回）。USB-C ケーブルまたは USB 充電器を変更することをお勧めします。
- バッテリーが機体に正しく挿入されていない場合、LED3 と LED4 が同時に点滅します。インテリジェント フライトバッテリーを再度挿入し、しっかり取り付けられていることを確認してください。
- 4 つの LED が同時に点滅する場合、バッテリーが損傷していることを示します。

バッテリー保護メカニズム

バッテリー LED インジケーターは、充電の異常状態で発動したバッテリー保護状態を示すことができます。

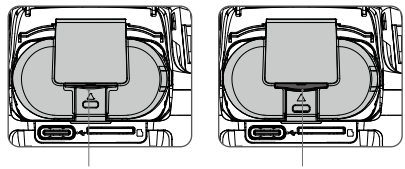
バッテリー保護メカニズム					
LED1	LED2	LED3	LED4	点滅パターン	バッテリー保護項目
○	☼	○	○	LED2 が毎秒 2 回点滅	過電流検知
○	☼	○	○	LED2 が毎秒 3 回点滅	短絡検知
○	○	☼	○	LED3 が毎秒 2 回点滅	過充電検知
○	○	☼	○	LED3 が毎秒 3 回点滅	充電器の過電圧検知
○	○	○	☼	LED4 が毎秒 2 回点滅	充電温度が低すぎる
○	○	○	☼	LED4 が毎秒 3 回点滅	充電温度が高すぎる

充電温度保護機能が有効になっている場合、温度が許容範囲に戻るとバッテリーの充電は再開されます。その他のバッテリー保護メカニズムのいずれかが有効な場合、充電を再開するには、電源ボタンを押してバッテリーの電源をオフにし、充電器のプラグを抜いてから、もう一度挿入する必要があります。充電温度が異常な場合は、充電温度が正常に戻るまで待ちます。充電器のプラグを抜き差しすることなく、バッテリーは自動的に充電を再開します。

バッテリーの取り付け／取り外し

使用前にインテリジェント フライトバッテリーを機体に取り付けます。バッテリーをバッテリー収納部に挿入し、バッテリークランプを固定します。バッテリーが完全に挿入されると、カチッという音がします。バッテリーが完全に挿入され、バッテリーカバーが所定の位置に固定されていることを確認してください。

 © 2021 DJI All Rights Reserved.



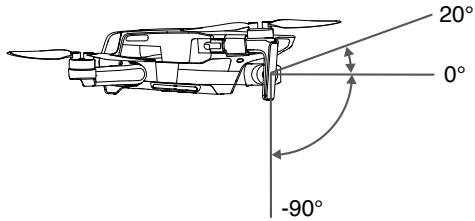
バッテリークランプを押し、バッテリー収納部からバッテリーを取り出します。

⚠ •機体の電源が入っているときにバッテリーを取り出さないでください。
•バッテリーがしっかりと取り付けられていることを確認してください。

ジンバル＆カメラ

ジンバルの特徴

DJI Mini 2 の 3 軸ジンバルは、カメラを安定させ、これによりクリアで安定した画像や動画を撮影できます。チルト制御範囲は -90° ～ +20° です。デフォルトでのチルト制御範囲は -90° ～ 0° で、この範囲は DJI Fly アプリの [上方ジンバルの回転を許可] を有効化することにより -90° ～ +20° に拡張できます。



送信機のジンバルダイヤルを使用して、カメラのチルトを操作します。または、DJI Fly でカメラビューに入ります。円が表示されるまで画面を押し、円を上下にドラッグしてカメラのチルトを操作します。

ジンバル操作モード

2 種類のジンバル操作モードがあります。DJI Fly の各操作モードを切り替えます。

フォローモード：ジンバルの向きと機体の前面の角度は、常に一定の角度を保ちます。

FPV モード：ジンバルが機体の動きと同調して、一人称視点の飛行体験を提供します。

© 2021 DJI All Rights Reserved.

- 離陸する前に、ジンバル上にステッカーが貼られていないことや障害物がないことを確認してください。機体の電源をオンにした状態でジンバルを押したり叩いたりしないでください。ジンバルを保護するために、平らで開けた場所から離陸させてください。
- 衝突や衝撃によりジンバルの精密性が損なわれるおそれがあります。損傷があると、ジンバルが異常な動きをすることがあります。
- ジンバル（特にジンバルのモーター）に埃や砂が付着しないようにしてください。
- 以下のような場合、ジンバルモーターエラーが発生する場合があります：a. 機体が平らでない地面に置かれているか、ジンバルが阻害されている場合。b. 衝突時など、ジンバルに外からの過剰な力を受けた場合。
- ジンバルの電源をオンにした後、ジンバルに外力をかけないでください。ジンバルに負荷をかけないでください。ジンバル動作の不具合や、モーターの損傷を引き起こすおそれがあります。
- 機体の電源をオンにする前に、必ずジンバル プロテクターを取り外してください。また、機体を使用しないときは、必ずジンバル プロテクターを取り付けてください。
- 濃霧や雲の中を飛行すると、ジンバルが湿気を帯びて一時的に不具合が生じることがあります。ジンバルが乾くと機能は正常に戻ります。

カメラの特徴

DJI Mini 2 は 1/2.3 インチ CMOS センサーカメラを使用し、最大 4K の動画と 12 MP の写真を撮ることができます。また、シングル撮影、オート露出ブラケット（AEB）、タイマー撮影、パノラマなどの撮影モードに対応しています。

カメラの絞りは F2.8 で、1 m ～∞（無限遠）までの距離の撮影ができます。

- 使用中と保管中、温度と湿度がカメラに適したものであることを確認してください。
- レンズクリーナーを使用してレンズを清掃し、損傷を防いでください。
- カメラの通気口をふさがないでください。熱が発生して、負傷したり、機器が損傷したりするおそれがあります。

写真および動画の保存

DJI Mini 2 では、microSD カードを使用して写真や動画を保存することができます。高解像度動画データの保存には高速の読み書き速度が必要なため、UHS-I スピードクラス 3 規格以上の microSD カードが必要です。推奨 microSD カードに関しては、仕様のセクションを参照してください。

microSD カードを挿入しなくても、シングル撮影や、通常の 720p 動画撮影が可能です。ファイルはモバイル端末に直接保存されます。

- 機体の電源がオンのときは、機体から microSD カードを抜かないでください。microSD カードが損傷する可能性があります。
- カメラシステムが安定して動作するように、1 回の動画撮影は 30 分までに制限してください。
- ご使用前にカメラ設定を確認して、設定内容が正しいことを確認してください。
- 大切な写真や動画を撮影する前に、いくつかの画像を試し撮りし、カメラが正しく動作することを確認してください。
- 機体の電源がオフの場合、DJI Fly を使用して機体の microSD カードから写真や動画を送信することはできません。
- 機体の電源は必ず正しく切るようにしてください。カメラのパラメーターが正しく保存されず、記録された動画が破損する可能性があります。画像や動画の記録の失敗、機械が読み取れない方式で記録された画像や動画の不具合に対し、DJI は一切責任を負いません。

 © 2021 DJI All Rights Reserved.

送信機

本セクションでは、送信機の各機能について説明します。また、機体とカメラの操作手順についても説明します。

© 2021 DJI All Rights Reserved.

送信機

送信機の特徴

DJI Mini 2 には、DJI の長距離伝送技術 OcuSync 2.0 を搭載した DJI RC-N1 送信機が付属しています。最大伝送距離は 10 km（日本国内では 6 km）を誇り、最大 720p の動画を、機体からモバイル端末の DJI Fly アプリへ送信し、表示します。送信機ボタンを使用して、機体とカメラを簡単にコントロールできます。操作スティックは着脱可能であるため、送信機の格納が容易です。

電波干渉がない広く開けた敷地では、OcuSync 2.0 は最大 720p の映像伝送をスムーズに行います。送信機は 2.4 GHz と 5.8 GHz の両方で動作し、最適な伝送チャンネルを自動的に選択します。（日本国内は 2.4 GHz のみ利用可）

OcuSync 2.0 は、ビデオデコーディングアルゴリズムおよびワイヤレスリンクを通じて、カメラのパフォーマンスを向上させることにより、遅延（レイテンシー）を約 200 ミリ秒に短縮します。

内蔵バッテリーの容量は 5200 mAh で、駆動時間は最大 6 時間です。送信機は、500 mA@5V の充電能力でモバイル端末を充電します。送信機は Android 端末を自動的に充電します。iOS デバイスの場合は、まず DJI Fly で充電が有効になっていることを確認してください。iOS デバイスの充電は、初期状態では無効になっており、送信機の電源が入るたびに有効にする必要があります。

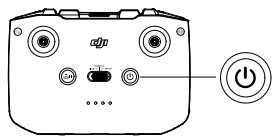
- 法規の準拠：送信機は現地法規に準拠しています。
- 操作スティックモード：各操作スティックの動きに対応する機能は、操作スティックモードの選択によって決まります。あらかじめプログラムされている 3 つのモード（モード 1、モード 2、モード 3）を使用でき、DJI Fly でカスタムモードを設定することもできます。初期状態のモードはモード 2 です。

送信機の使用

電源のオン／オフ

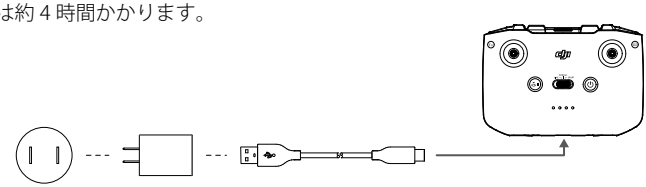
電源ボタンを 1 回押して、現在のバッテリー残量を確認します。バッテリー残量が少ない場合、使用前に充電してください。

ボタンを 1 回押し、次に長押しすると、送信機の電源オン／オフを切り替えられます。



バッテリーの充電

USB-C ケーブルを使用して、USB 充電器を送信機の USB-C ポートに接続します。送信機を完全に充電するには約 4 時間かかります。

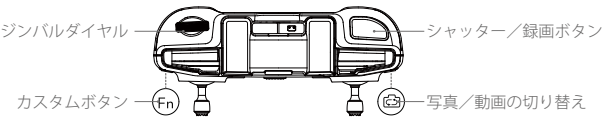


ジンバル＆カメラの操作

1. シャッター／録画ボタン：カメラビューで、シャッター／録画ボタンを押すと写真撮影または録画の開始／停止を行います。
2. 写真／動画の切り替え：1 回押すと、写真モードと動画モードを切り替えます。

 © 2021 DJI All Rights Reserved.

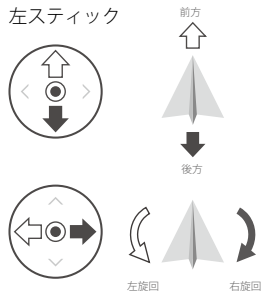
3. ジンバルダイヤル：このダイヤルでジンバルのチルトを調節します。
4. カスタムボタンを長押ししたまま、ジンバルダイヤルを使用すると、動画モードでズームを調整します。

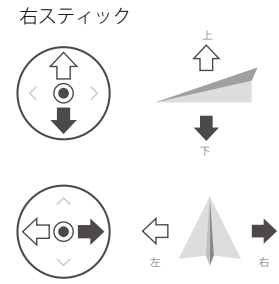


機体の制御

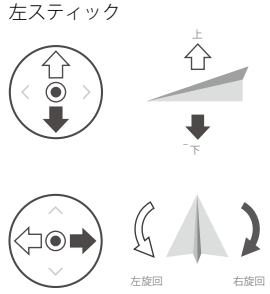
操作スティックを使用して、機体の方向（パン）、前後の動き（ピッチ）、高度（スロットル）、および左右の動き（ロール）を制御します。各操作スティックの動きに対応する機能は、操作スティックモードの選択によって決まります。

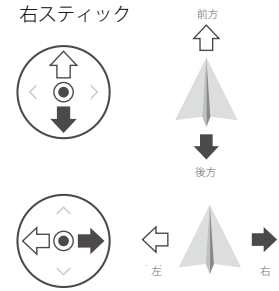
モード 1



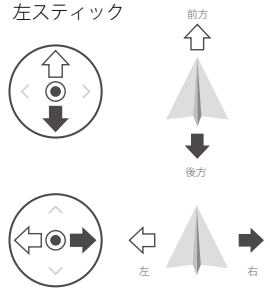


モード 2





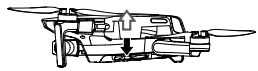
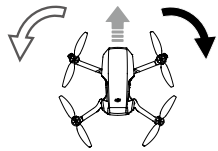
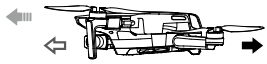
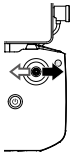
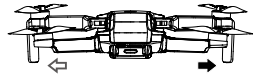
モード 3



© 2021 DJI All Rights Reserved.

あらかじめプログラムされている 3 つのモード（モード 1、モード 2、モード 3）を使用でき、DJI Fly でカスタムモードを設定することもできます。初期状態のモードはモード 2 です。下図ではモード 2 を例にして、各操作スティックの使用方法を説明しています。

•スティック ニュートラル／中心点：操作スティックはセンターポジションにあります。
•操作スティックを動かす：操作スティックを倒して、センターポジションから遠ざけます。

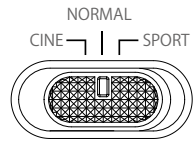
送信機 （モード 2）	機体 （機首方向を示す）	備考
		スロットルスティック：左スティックを上下に倒して、機体の高度を変更します。 上昇するにはスティックを上に倒し、下降するには下に倒します。スティックが中央位置から離れるほど、機体の高度変更速度が速くなります。 機体の高度を急激に変えないよう、操作スティックは優しくゆっくりと動かしてください。
		ヨースティック：左スティックを左右に動かして、機体の進行方向を制御します。 スティックを左に倒すと機体は反時計回りに回転し、右に倒すと時計回りに回転します。 スティックが中央位置から離れるほど、機体の回転速度が速くなります。
		ピッチスティック：右スティックを上下に動かすと、機体のピッチを変えられます。 スティックを上に倒すと前進し、下に倒すと後進します。 スティックが中央位置から離れるほど、飛行速度が上がります。
		ロール スティック：右スティックを左右に動かすと、機体のロールを変えられます。 左に押すと左に飛行し、右に押すと右に飛行します。 スティックが中央位置から離れるほど、飛行速度が上がります。

 © 2021 DJI All Rights Reserved.

フライトモードスイッチ

このスイッチを切り替えて、目的のフライトモードを選択します。

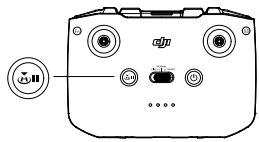
位置	フライトモード
SPORT	スポーツモード
NORMAL	ノーマルモード
CINE	シネモード



飛行一時停止／ RTH ボタン

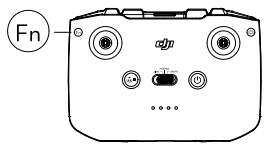
一度押すと、機体の動作にブレーキがかかり、その場でホバリングします。機体がクイックショット、RTH、または自動着陸を実行している場合は、ブレーキをかける前に一度押すと、機体がそのプロセスを終了します。

RTH を開始するには、送信機からビープ音が鳴るまで RTH ボタンを長押しします。再度このボタンを押すと、RTH をキャンセルし機体を制御できるようになります。RTH の詳細については、「RTH（Return-to-Home：帰還）」セクションを参照してください。



カスタムボタン

DJI Fly の [システム設定] に移動し、[制御] を選択してこのボタンの機能をカスタマイズします。カスタム可能な機能には、ジンバルの再センタリングや、マップとライブビューの切り替えが含まれます。



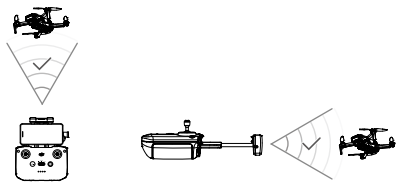
送信機のアラート

送信機は RTH 中にアラートを鳴らします。アラートをキャンセルすることはできません。送信機は、バッテリー残量が低下（6% ～ 15%）するとアラートが鳴ります。電源ボタンを押すことにより、ローバッテリー警告をキャンセルできます。重度のローバッテリー残量警告（5% 未満）はキャンセルできません。

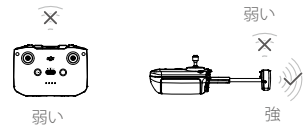
© 2021 DJI All Rights Reserved.

最適な伝送範囲

機体と送信機間の信号は、アンテナと機体の相対的な位置関係が下の図に示すようになっているときに最も信頼性が高くなります。



最適な伝送範囲



送信機のリンク

送信機は出荷前に機体とリンクされています。リンク作業は、新しい送信機を初めて使用する場合にのみ必要です。新しい送信機をリンクするには、以下の手順に従ってください。

1. 送信機と機体の電源を入れます。
2. DJI Fly を起動します。
3. カメラビューで•••をタップし、[制御] を選択し [機体とペアリングする（リンク）] を選択します。送信機からビープ音が鳴り続けます。
4. 機体の電源ボタンを 4 秒以上押し続けます。機体はビープ音を 1 回鳴らし、リンクの準備ができたことを示します。リンクが正常に行われたら、機体でビープ音が 2 回鳴ります。送信機のバッテリー残量 LED が点灯します。

- リンクは、送信機が機体から 0.5 m 以内にある状態で行ってください。
- 新しい送信機を同じ機体にリンクさせると、すでにリンクされていた送信機は自動でリンク解除されます。
- OcuSync 2.0 動画伝送接続を使用する場合は、Bluetooth と Wi-Fi をオフにしてください。そうしない場合、動画伝送に影響を与えるおそれがあります。

- 飛行の前には必ず送信機を完全に充電してください。送信機は、バッテリー残量が低下するとアラートが鳴ります。
- 送信機の電源がオンの状態で 5 分間操作をしないと、アラートが鳴ります。6 分経過すると、自動的に機体の電源がオフになります。操作スティックを動かすか、任意のボタンを押してアラートをキャンセルしてください。
- モバイル端末ホルダーを調整して、モバイル端末が確実に固定されるようにします。
- バッテリーを良好な状態に保つために、少なくとも 3 ヵ月に 1 回はバッテリーを完全に充電してください。

 © 2021 DJI All Rights Reserved.

DJI Fly アプリ

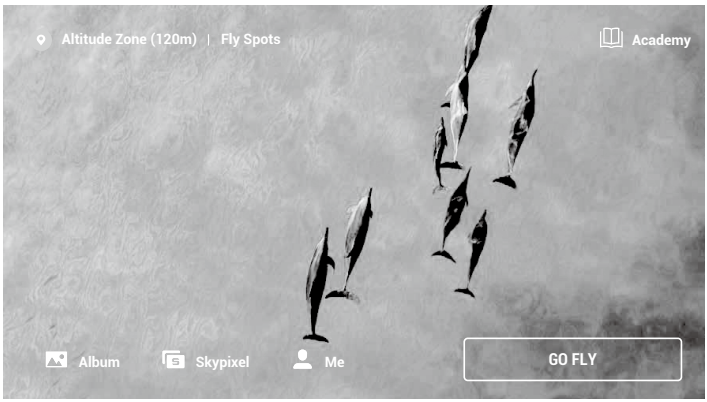
本セクションでは、DJI Fly アプリの主要機能について説明します。

© 2021 DJI All Rights Reserved.

DJI Fly アプリ

ホーム

DJI Fly を起動して、ホーム画面に移動します。



フライスポット

近くの適切な飛行場所や撮影場所を表示または共有、GEO 区域の詳細を確認、他のユーザーが撮影したさまざまな場所の航空写真をプレビューできます。

アカデミー

上部右のアイコンをタップするとアカデミーに入ります。製品チュートリアル、飛行のヒント、飛行安全、およびマニュアルを確認できます。

アルバム

DJI Fly とモバイル端末からの写真と動画を表示します。動画をダウンロードする場合は、トリムダウンロードに対応しています。ダウンロードするクリップを選択します。クイックショット動画は、モバイル端末にダウンロードしてレンダリングした後、作成、表示されます。作成のセクションには、テンプレートとプロがあります。テンプレートは、インポートされた映像を自動編集します。プロでは、映像を手動編集できます。

SkyPixel

SkyPixel では、DJI 製品ユーザーが共有するビデオや写真を表示できます。

プロフィール

アカウント情報、フライト記録、DJI フォーラム、オンラインストア、ドローンを探すなどの機能、その他の設定を表示します。

 © 2021 DJI All Rights Reserved.

⚠ トリムダウンロードは、次の状況には対応していません。

- 動画の長さが 5 秒未満。
- オリジナル動画に対応するキャッシュ済みの動画がモバイル端末にない。必ず撮影に使用したモバイル端末でダウンロードしてください。
- モバイル端末のキャッシュ済み動画と機体の microSD カードからのオリジナル動画との時間の差が大きすぎます。これは、次の理由で起こる場合があります。

  a) 電話に出たり、メッセージに返信したりするなどして、録画中に DJI Fly を終了した。

  b) 録画中に動画伝送が切断された。

カメラビュー

1. フライトモード
   N モード：現在のフライトモードを表示します。
2. システム ステータスバー
   飛行中：機体の飛行状況を示し、様々な警告メッセージを表示します。警告プロンプトが表示されたら、タップして詳細情報を表示します。
3. バッテリー情報
   24'26"：現在のバッテリー残量と残りの飛行時間を表示します。タップすると、バッテリーの詳細情報が表示されます。
4. 動画ダウンリンク信号強度
   ：機体と送信機との間の動画ダウンリンク信号強度を表示します。
5. GPS ステータス
   ：現在の GPS の信号強度を表示します。
6. システム設定
   ●●●：タップすると、安全／制御／カメラ／伝送についての情報が表示されます。

© 2021 DJI All Rights Reserved.

安全
飛行保護：タップすると、最大高度、最大距離、自動 RTH 高度の設定やホームポイントの更新を行えます。
センサー：IMU とコンパスのステータスを表示し、必要に応じてキャリブレーションを開始します。
詳細設定：緊急プロペラ停止およびペイロードモードの設定があります。プロペラ緊急停止の設定での「緊急時のみ」とは、衝突が起きたり、機体が制御不能になって機体が急上昇／急降下したり、空中でローリングしたり、モーターが動かなったりなど緊急事態が発生した場合にのみ飛行中にモーターを停止できることを示します。緊急プロペラ停止の「随時」は、ユーザーがコンビネーション スティック コマンド（CSC）を実行すると、飛行中にいつでもモーターを停止できることを示します。飛行中にモーターが停止すると、機体は墜落します。
DJI Mini 2 にアクセサリーが取り付けられている場合は、安全性を高めるためにペイロードモードを有効にすることをお勧めします。離陸後、ペイロードが検出されると、ペイロードモードが自動的に有効になります。ペイロードモードが有効な場合、運用限界高度（海抜）は 1500 m であり、最大飛行速度は制限されることに注意してください。
ドローンを探す機能は、地上にある機体の位置を見つけるのに役立ちます。

制御
機体設定：タップすると、単位系などを設定できます。
ジンバル設定：タップすると、ジンバルモードの設定、上方ジンバル回転の許可、ジンバルの再センタリング、ジンバルのキャリブレーションを行います。高度なジンバル設定には、ピッチとヨーの速度と滑らかさが含まれます。
送信機設定：タップすると、カスタムボタンの機能の設定、送信機キャリブレーション、接続された iOS デバイスの充電、操作スティックモードの切り替えなどを行えます。操作スティックモードを切り替える前に操作スティックモードの操作について必ず理解しておいてください。
ビギナー飛行チュートリアル：飛行チュートリアルを表示します。
機体に接続する：送信機と機体がリンクされていないときにタップすると、リンクを開始します。

カメラ
写真：タップして、写真サイズを設定します。
一般設定：タップすると、ヒストグラム、露出オーバー警告、グリッド線、ホワイトバランス、HD 写真の自動同期の確認や設定を行えます。
ストレージ：タップして、microSD カードの容量とフォーマットを確認します。
キャッシュ設定：タップして、録画時のキャッシュと最大動画キャッシュ容量を設定します。
カメラパラメーターのリセット：タップすると、すべてのカメラ設定をデフォルトに戻すことができます。

伝送
周波数およびチャンネルモードの設定。

詳細
端末情報、ファームウェア情報、アプリのバージョン、バッテリーのバージョンなどを表示します。

7. 撮影モード
静止画：シングル、オート露出ブラケット (AEB)、タイマー撮影。
動画：動画解像度は、4K 24/25/30fps、2.7K 24/25/30/48/50/60fps および 1080P 24/25/30/48/50/60fps に設定できます。
パノラマ：スフィア、180°、広角。機体は、選択されたパノラマの種類に応じて、自動的に数枚の写真を撮影し、DJI Fly でパノラマ写真を生成します。
クイックショット：ドローニー、サークル、ヘリックス、ロケット、ブーメランから選択します。

8. シャッター／録画ボタン
●：タップして写真を撮影する、もしくは録画を開始／停止します。
動画の録画中、最大 4 倍のデジタルズームに対応しています。1xをタップして、ズーム率を切り替えます。1080p は 4 倍デジタルズームに対応し、2.7K は 3 倍デジタルズームに対応し、4K は 2 倍デジタルズームに対応しています。また、ユーザーは写真モードの 2 倍ズームを使用できます。

9. 再生
▶：タップすると再生に入り、撮影した写真や動画をすぐにプレビューできます。
アルバムに移動して、をタップすると、クイック転送モード（Wi-Fi 接続）とフライトモード（OcuSync 2.0 動画伝送接続）を切り替えます。

 © 2021 DJI All Rights Reserved.

10. カメラモード切り替え

AUTO：写真モードのときは、オートモードもしくはマニュアル モードを選択できます。マニュアル モードでは、シャッターと ISO を設定できます。オートモードでは、AE ロックと EV を設定できます。

11. microSD カード情報

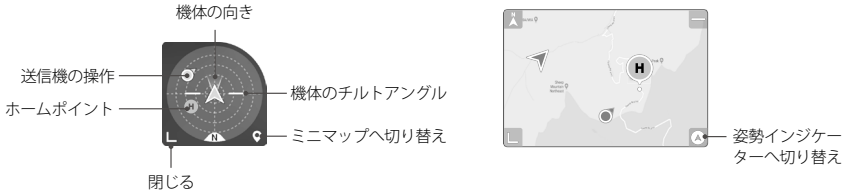
4K 30
1:30:26：現在の microSD カードの撮影可能枚数や録画可能時間を表示します。タップして microSD カードの使用可能な容量を表示します。

12. フライトテレメトリ

D 12 m、**H 6 m**、**1.6 m/s**、**1 m/s**：機体とホームポイント間の距離、ホームポイントからの高さ、機体の水平速度、および機体の垂直速度を表示します。

13. 姿勢インジケーター

機体の方向やチルトアングル、送信機の位置、ホームポイントの位置などの情報を表示します。



14. 自動離陸／自動着陸／ RTH

／：アイコンをタップします。プロンプトが表示され、ボタンを長押しすると、自動離陸や自動着陸が開始します。

をタップするとスマート RTH が起動し、最後に記録されたホームポイントに機体を帰還させます。

15. 戻る

〈：タップするとホーム画面に戻ります。

円が表示されるまで画面を押し、円を上下にドラッグしてジンバルのチルトを操作します。

⚠
- DJI Fly を起動する前に、モバイル端末を完全に充電してください。
- DJI Fly を使用する際は、モバイルデータ通信容量を使用します。データ使用料についてはお使いの通信会社にお問い合わせください。
- スマートフォンをディスプレイ機器として使用している場合は、飛行中に電話を受けたり、テキストメッセージ機能を使用したりしないでください。
- 画面に表示される安全性に関するヒント、警告メッセージ、および免責事項をよくお読みください。お使いの地域の関連法規を事前に確認しておいてください。ユーザーには、関連法規をすべて理解、順守して飛行する責任があります。
  a) 自動離陸と自動着陸機能を使用する前に、警告メッセージを読んで理解しておいてください。
  b) 初期状態の制限よりも高い高度に設定する前に、警告メッセージと免責条項を読んで理解しておいてください。
  c) フライトモードを切り替える前に、警告メッセージと免責事項を読んで理解しておいてください。
  d) GEO 区域内またはその近くで出される警告メッセージと免責条項を読んで理解しておいてください。
  e) インテリジェント フライトモードを使用する前に、あらかじめ警告メッセージを読んで理解しておいてください。
- アプリ上で、着陸するように指示するプロンプトが表示された場合は、安全な場所にすぐに機体を着陸させてください。
- 各フライトの前にアプリに表示されているチェックリストの警告メッセージをすべて確認してください。

© 2021 DJI All Rights Reserved.

⚠
- これまでに機体の操作経験がない場合、または自信を持って機体を操作するのに十分な経験がない場合は、アプリのチュートリアルを使って、飛行技術を練習してください。
- 飛行を開始する前にインターネットに接続して、飛行地域の地図データをキャッシュしてください。
- このアプリは、操作をアシストするために設計されています。アプリに頼りすぎず、適切な裁量に基づいて機体を操作してください。アプリの使用は、DJI Fly の利用規約と DJI のプライバシーポリシーの対象となります。アプリでこれらをよくお読みください。

 © 2021 DJI All Rights Reserved.

飛行

本セクションでは、安全な飛行方法と飛行に関する制限事項について説明します。

© 2021 DJI All Rights Reserved.

飛行

飛行前の準備が完了したら、飛行技術を磨き、安全飛行を心がけてください。飛行は常に障害物のない開けた場所で実施してください。飛行高度は 500 m に制限されています。この高さを超えないでください。飛行中は、現地の法律および規制を順守してください。飛行する前に、DJI Mini 2 の免責事項と安全に関するガイドラインを読んで、安全上の注意について理解しておいてください。

飛行環境の条件

1. 風速 10m/s 超の時、雪、雨、霧などの悪天候時には、飛行させないでください。
2. 飛行は周囲が開けた場所でのみ行ってください。高い建造物や巨大な金属製の建造物は、機体に搭載されているコンパスや GPS システムの精度に影響を及ぼす場合があります。機体は、構造物から最低でも 5 m 以上離れて距離を保つことをお勧めします。
3. 障害物、人混み、高電圧線、樹木、水域を避けてください。機体は、水際から最低でも 3 m 以上離れて距離を保つことをお勧めします。
4. 高レベルの電磁波を発する送電線、基地局、変電所、放送用電波塔などのあるエリアを避け、電磁干渉を最小限に抑えてください。
5. 機体やバッテリーの性能は、空気密度や気温などの環境要因に左右されます。機体を海抜 3,000 m 以上で、飛行させないでください。バッテリーと機体の性能が低下するおそれがあります。
6. 機体は、南極圏、北極圏で GPS を使用することはできません。そのような場所で飛行させる時は下方ビジョンシステムを使用してください。
7. 航行中の船舶あるいは走行中の車両などの移動する場所から離陸するときには慎重に飛行してください。

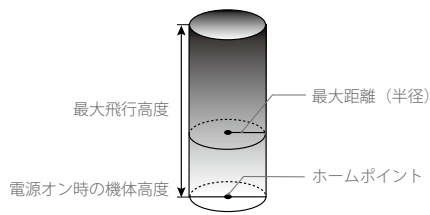
飛行制限と GEO 区域

無人飛行体（UAV）の操縦者は、ICAO（国際民間航空機関）、FAA（米国連邦航空局）、地域の航空機関などのの自主規制機関の定める規制に従わなければなりません。安全上の理由から、デフォルトで飛行制限が有効化されており、ユーザーが機体を安全に合法的に使用できるようになっています。ユーザーは飛行限界の高度と距離を設定できます。

GPS が利用可能な場合は、高度制限、距離制限、GEO 区域の機能が同時に働き、飛行の安全を管理します。GPS が利用できない場合は、高度のみを制限できます。

飛行高度と距離制限

飛行高度と飛行距離の制限は、DJI Fly で変更できます。これらの設定に基づき、機体は下図のような制限円筒内で飛行します。



 © 2021 DJI All Rights Reserved.

GPS 有効時

	飛行制限	DJI Fly アプリ	機体ステータスインジケーター
最大高度	機体の高度が指定の値を超えることはできません	警告：高度制限に到達	緑色と赤色に交互に点滅
最大距離（半径）	飛行距離は最大距離（半径）内でなければなりません	警告：距離制限に到達	

GPS 信号が弱い場合

	飛行制限	DJI Fly アプリ	機体ステータスインジケーター
最大高度	GPS 信号が弱く、赤外線検知システムが動作している場合、高度は 5 m に制限されます。 GPS 信号が弱く、赤外線検知システムが動作していない場合、高度は 30 m に制限されます。	警告：高度制限に到達。	赤色と緑色に交互に点滅
最大距離（半径）	最大距離（半径）の制限が無効となり、アプリで警告プロンプトを受信できなくなります。		

⚠
- 機体の電源が入ったときに GPS 信号が弱以上である限り（白または黄色の信号バー）、飛行中に GPS 信号が弱くなっても、高度制限は生じません。
- 機体が GEO 区域内で GPS 信号が弱いか全くない場合、機体ステータスインジケーターは 12 秒ごとに 5 秒間赤く点灯します。
- 機体が高度または飛行距離の制限に達した場合でも機体を制御することはできますが、それ以上遠くには飛行できません。本機が最大半径の外へ飛行した場合、GPS 信号が強ければ自動で範囲内に戻ります。
- 安全上の理由から、空港、高速道路、鉄道の駅、鉄道の線路、市街地、その他の要注意エリアの近くで飛行しないでください。機体は、常に目視内で飛行させてください。

GEO 区域

DJI 公式ウェブサイト（http://www.dji.com/flysafe）には、GEO 区域の一覧が掲載されています。GEO 区域は異なるカテゴリー別に分類され、空港、有人飛行機が低空で操縦されている飛行場、国境、および発電所などの要注意区域が含まれています。

機体が GEO 区域に近づいている場合、DJI Fly にプロンプトが表示され、その区域での飛行に関して制限を受けます。

© 2021 DJI All Rights Reserved.

フライト前チェックリスト

1. 送信機、モバイル端末、インテリジェント フライトバッテリーが完全に充電されていることを確認してください。
2. インテリジェント フライトバッテリーおよびプロペラがしっかり取り付けられ、プロペラが広げられていることを確認してください。
3. 機体のアームが展開していること確認を確認してください。
4. ジンバル＆カメラが正常に機能することを確認してください。
5. モーターの動きを妨げるものがなく、モーターが正常に機能することを確認してください。
6. DJI Fly アプリが機体に正しく接続されていることを確認してください。
7. カメラレンズと下方ビジョンシステムのセンサーに汚れがないことを確認してください。
8. DJI の純正部品または DJI が認定する部品のみをご使用ください。非純正の部品や DJI 認定メーカー以外が製造した部品を使用すると、システムに不具合が発生し、安全性が損なわれるおそれがあります。

自動離陸／自動着陸

自動離陸

機体ステータスインジケーターが緑色に点滅している場合に、自動離陸を使用します。

1. DJI Fly を起動して、カメラビューに入ります。
2. フライト前チェックリストの手順をすべて完了します。
3. をタップします。安全に離陸できる状態である場合は、ボタンを長押しして確定します。
4. 機体は離陸し、地上約 1.2 m の高さでホバリングします。

⚠
- 機体ステータスインジケーターが緑色に 2 回点滅するのを繰り返している時は、機体は下方ビジョンシステムを使用して飛行し、高度 30 m 未満でのみ安定して飛行できることを示します。機体ステータスインジケーターがゆっくりと緑色に点滅するまで待ってから、自動離陸機能を使用することをお勧めします。
- ボートや乗り物などの動くものから離陸しないでください。

自動着陸

機体ステータスインジケーターが緑色に点滅している場合に、自動着陸機能を使用します。

1. をタップします。安全に着陸できる状態である場合は、ボタンを長押しして確定します。
2. をタップすると自動着陸をキャンセルできます。
3. 下方ビジョンシステムの動作が正常であれば着陸保護が有効化されます。
4. 着陸後にモーターは停止します。

⚠
- 着陸に適切な場所を選択してください。

 © 2021 DJI All Rights Reserved.

モーターの始動と停止

モーターの始動

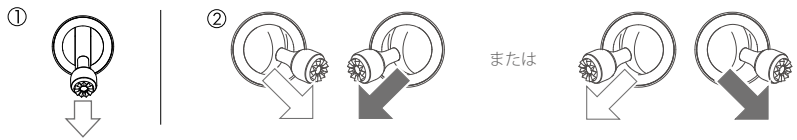
モーターの始動には、コンビネーション スティック コマンド（CSC）を使用します。両方のスティックを内側下角または外側下角に向けて倒して、モーターを始動します。モーターの回転が始まったら、両方のスティックを同時に放します。

モーターの停止

モーターの停止方法は 2 通りあります。

方法 1：機体が着陸したら、スロットルスティックを下に倒し続けます。モーターは 3 秒後に停止します。

方法 2：機体が着陸したら、スロットルスティックを下に倒し、モーター始動時と同じ CSC コマンドを実行すると、モーターが停止します。モーターが停止したら両スティックを離します。



飛行中のモーター停止

飛行中のモーター停止は、衝突が起きたり、機体が制御不能になって急上昇／急降下したり、空中でローリングしたり、モーターが動かなくなるなど緊急事態が発生した場合にのみ行ってください。飛行中にモーターを停止させるには、モーター始動時と同じCSCを使用します。デフォルトの設定は、DJI Fly で変更できます。

⚠ •飛行中にモーターが停止すると、機体は墜落します。

飛行テスト

離陸／着陸手順

1. 見晴らしのよい平らな場所に、機体ステータスインジケーターが自分の方を向くようにして機体を置きます。
2. 送信機と機体の電源を入れます。
3. DJI Fly を起動し、モバイル端末を機体に接続して、カメラビューに入ります。
4. 機体ステータスインジケーターがゆっくりと緑色に点滅して、ホームポイントが記録され飛行しても安全であることが示されるのを待ちます。
5. スロットルスティックをゆっくり上に倒すか、自動離陸を使用して、離陸します。
6. スロットルスティックを下に倒すか、自動着陸を使用して、機体を着陸させます。

© 2021 DJI All Rights Reserved.

7. 着陸後、スロットルを下方向に倒しつづけます。モーターは 3 秒後に停止します。
8. 機体と送信機の電源を切ります。

動画に関する提案とヒント

1. フライト前チェックリストの目的は、安全に飛行し、飛行中に確実に動画を撮影できるようにすることにあります。飛行の前には、必ず、フライト前チェックリストをすべて確認してください。
2. DJI Fly で目的のジンバル操作モードを選択してください。
3. ノーマルモードまたはシネモードで飛行する時に、写真や動画を撮影することをお勧めします。
4. 雨天や強風時など、悪天候のとき飛行しないでください。
5. ニーズに合ったカメラ設定を選択してください。
6. 飛行ルートと撮影シーンを想定し飛行テストを実施してください。
7. 操作スティックをゆっくり操作してスムーズで安定した動きを維持してください。

ご自身の安全と周りの人々の安全のため、基本的な飛行ガイドラインを理解しておくことが重要です。

免責事項と安全に関するガイドラインを必ずお読みください。

 © 2021 DJI All Rights Reserved.

付録

© 2021 DJI All Rights Reserved.

付録

仕様

機体	
離陸重量	＜ 249 g（グローバル版） 199 g（日本版）
サイズ	グローバル版 折りたたんだ状態：138 × 81 × 58 mm 展開した状態：159 × 203 × 56 mm 展開した状態（プロペラあり）：245 × 289 × 56 mm 日本版 折りたたんだ状態：138 × 81 × 57 mm 展開した状態：159 × 202 × 55 mm 展開した状態（プロペラあり）：245 × 289 × 55 mm
対角寸法	213 mm
最大上昇速度	5 m/s（スポーツモード） 3 m/s（ノーマルモード） 2 m/s（シネモード）
最大下降速度	3.5 m/s（スポーツモード） 3 m/s（ノーマルモード） 1.5 m/s（シネモード）
最大飛行速度（海水面近く、無風）	16 m/s（スポーツモード） 10 m/s（ノーマルモード） 6 m/s（シネモード）
運用限界高度（海抜）	4,000 m（グローバル版） 3,000 m（日本版）
最大飛行時間	31 分（グローバル版）（無風で 17 km/h の速度で飛行時に測定） 18 分（日本版）（無風で 17 km/h の速度で飛行時に測定）
最大風圧抵抗	10 m/s（スケール 5）
最大傾斜角度	40°（スポーツモード） 25°（ノーマルモード） 25°（シネモード）
最大角速度	250°/s（スポーツモード） 250°/s（ノーマルモード） 250°/s（シネモード）
動作環境温度	0℃～ 40℃
GNSS	GPS+GLONASS+Galileo
動作周波数	2.400 ～ 2.4835 GHz、5.725 ～ 5.850 GHz（日本国内は 2.400 ～ 2.4835GHz のみ利用可）
伝送電力（EIRP）	2.4 GHz: ≤26 dBm (FCC)、≤20 dBm（CE/SRRC/MIC（日本）） 5.8 GHz: ≤26 dBm (FCC/SRRC)、≤14 dBm (CE)

© 2021 DJI All Rights Reserved.

ホバリング精度範囲	垂直：± 0.1 m（ビジョンポジショニングあり）、± 0.5 m（GPS ポジショニングあり） 水平：± 0.3 m（ビジョンポジショニングあり）、± 1.5 m（GPS ポジショニングあり）
ジンバル	
機械的な可動範囲	チルト：-110° ～ +35° ロール：-35° ～ +35° パン：-20° ～ +20°
操作可能範囲	チルト：-90° ～ 0° （デフォルト）、-90° ～ +20° （拡張時）
スタビライズ機構	3 軸（チルト、ロール、パン）
最大制御速度（チルト）	100° /s
角度ぶれ範囲	± 0.01°
検知システム	
下方	ホバリング範囲：0.5 ～ 10 m
動作環境	反射のない識別可能な地面 拡散反射表面 (>20%) 十分な明るさのある状態（ルクス >15）
カメラモデル	
センサー	1/2.3 インチ CMOS、有効画素数：12 M
レンズ	FOV：83° 35 mm 判換算：24 mm 絞り：F2.8 フォーカス範囲：1m ～∞
ISO 感度	動画：100 ～ 3200 写真：100 ～ 3200
電子シャッター速度	4 ～ 1/8000 秒
最大静止画サイズ	4：3：4000 × 3000 16:9：4000 × 2250
静止画モード	シングル撮影 インターバル撮影：2/3/5/7/10/15/20/30/60 秒 (JPEG)、 5/7/10/15/20/30/60 秒 (JPEG+RAW) オート露出ブラケット（AEB）：2/3EV ステップで 3 ブラケットフレーム
動画解像度	4K: 3840 × 2160 24/25/30 p 2.7K：2720 × 1530 24/25/30/48/50/60 p FHD：1920 × 1080 24/25/30/48/50/60 p
最大動画ビットレート	100 Mbps
対応ファイルフォーマット	FAT32（≦ 32GB） exFAT (> 32 GB)
静止画フォーマット	JPEG ／ DNG（RAW）
動画フォーマット	MP4（H.264/MPEG-4 AVC）
送信機	
動作周波数	2.400 ～ 2.4835 GHz、5.725 ～ 5.850 GHz（日本国内は 2.400 ～ 2.4835GHz のみ利用可）
最大伝送距離（障害物や干渉がない場合）	10 km (FCC)、6 km (CE/SRRC/MIC（日本）)
伝送距離（一般的な使用場面）(FCC)	強い干渉（例：市内中心部）：約 3 km 中程度の干渉（例：郊外、小さな町）：約 6 km 干渉なし（例：農村地域、ビーチ）：約 10 km
動作環境温度	-10℃～ 40℃

© 2021 DJI All Rights Reserved.

伝送電力（EIRP）	2.4 GHz: ≤26 dBm (FCC)、≤20 dBm（CE/SRRC/MIC（日本）） 5.8 GHz: ≤26 dBm (FCC/SRRC)、≤14 dBm (CE)
バッテリー容量	5200 mAh
動作電流／電圧	3.6 V/1200 mA（Android 端末の場合） 3.6 V/700 mA（iOS 端末の場合）
対応モバイル端末サイズ	180 × 86 × 10 mm (高さ×幅×厚さ)
対応 USB ポートタイプ	Lightning、Micro USB（Type B）、USB-C
映像伝送システム	OcuSync 2.0
ライブビュー品質	720p/30fps
最大ビットレート	8 Mbps
遅延（環境条件およびモバイル端末に依存）	200 ms
充電器	
入力	100 ～ 240 V、50/60 Hz、0.5 A
出力	12V 1.5 A / 9 V 2 A / 5 V 3 A
定格出力	18 W
インテリジェント フライトバッテリー（グローバル版）	
バッテリー容量	2250 mAh
電圧	7.7 V
最大充電電圧	8.8 V
バッテリータイプ	LiPo 2S
電力量	17.32 Wh
重量	82.5 g
充電環境温度	5℃ ～ 40℃
最大充電電力	29 W
インテリジェント フライトバッテリー（日本版）	
バッテリー容量	1065 mAh
電圧	7.6 V
最大充電電圧	8.7V
バッテリータイプ	LiPo 2S
電力量	8.09 Wh
重量	48.9 g
充電環境温度	5℃ ～ 40℃
最大充電電力	18 W
アプリ	
アプリ	DJI Fly
OS 要件	iOS v11.0 以降、Android v6.0 以降
SD カード	
対応 SD カード	UHS-I スピードクラス 3 以上の microSD カード

 © 2021 DJI All Rights Reserved.

推奨 microSD カード	16 GB：SanDisk Extreme 32 GB：Samsung Pro Endurance、Samsung Evo Plus、SanDisk Industrial、 SanDisk Extreme V30 A1、SanDisk Extreme V30 A2、SanDisk Extreme Pro V30 A1、SanDisk Extreme Pro V30 A2、Lexar 633x、 Lexar 667x 64 GB：Samsung Pro Endurance、Samsung Evo Plus、SanDisk Extreme V30 A1、SanDisk Extreme V30 A2、Lexar 633x、Lexar 667x、Lexar 1000x、Lexar High Endurance、Toshiba EXCERIA M303 V30 A1、 Netac Pro V30 A1 128 GB：Samsung Pro Plus、Samsung Evo Plus、SanDisk Extreme V30 A1、 SanDisk Extreme V30 A2、SanDisk Extreme Plus V30 A1、SanDisk Extreme Plus V30 A2、Lexar 633x、Lexar 667x、Lexar 1000x、Lexar High Endurance、Toshiba EXCERIA M303 V30 A1、Netac Pro V30 A1 256 GB：SanDisk Extreme V30 A1、SanDisk Extreme V30 A2

- 機体の離陸重量には、バッテリーとプロペラが含まれています。
- 一部の国と地域では、機体の登録が必要です。ご使用の前に、現地の法律および規制をご確認ください。
- 上記の一般的な使用場面での伝送距離は、障害物のない FCC エリアでテストした時の標準的な値です。
- 仕様に記載されている値は、リリース時の最新版ファームウェアでの測定値です。ファームウェアの更新は、性能を向上させることができます。最新のファームウェアに更新することを強く推奨します。

コンパスのキャリブレーション

屋外飛行時に以下のいずれかの状況では、コンパスをキャリブレーションすることをお勧めします。

1. 機体の最終飛行場所から 50 km 以上離れた地点で飛行する場合。
2. 本機を 30 日以上飛行しなかった場合。
3. DJI Fly にコンパス干渉警告が表示されたり、機体ステータスインジケーター が赤色と黄色に交互に点滅する場合。

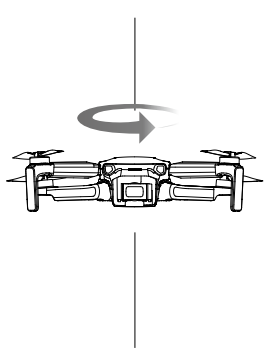
- 磁鉄鉱床や大きい金属製建造物（駐車場ビル、鋼心地下室、橋、車両、足場など）の近くなど、磁気干渉が発生しやすい場所でコンパスのキャリブレーションを行わないでください。
- キャリブレーションを実施する際、携帯電話などの強磁性物質を含むものを機体の近くに持ち込まないでください。
- 屋内で飛行させる時は、コンパスのキャリブレーションは不要です。

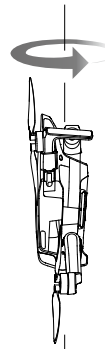
キャリブレーション手順

障害物のない開けた場所を選んで、以下の手順を実施してください。

1. DJI Fly のシステム設定をタップし、[安全] を選択してから [キャリブレーション] を選択し、画面の指示に従います。機体ステータスインジケーターが黄色に点灯したら、キャリブレーションを開始します。
2. 機体を水平に保ち、360 度回転します。機体ステータスインジケーターが緑色に点灯します。
3. 機体を垂直に保ち、垂直軸方向に 360 度回転します。
4. 機体ステータスインジケーターが赤色で点滅する場合は、キャリブレーションに失敗したことを示します。場所を変えてもう一度キャリブレーション手順をやり直してください。

© 2021 DJI All Rights Reserved.





⚠
- キャリブレーションの完了後に機体ステータスインジケーターが赤色と黄色に交互に点滅する場合は、磁気干渉レベルのため、現在の場所が機体の飛行に適していないことを示します。新しい飛行場所を選択してください。

- 離陸前にコンパス キャリブレーションが必要な場合、DJI Fly にプロンプトが表示されます。
- キャリブレーションが完了すると、機体は直ちに離陸できます。キャリブレーション終了後 3 分以内に離陸しない場合は、再度キャリブレーションが必要です。

ファームウェアの更新

機体や送信機を DJI Fly に接続したときに新しいファームウェアの更新がある場合、通知されます。更新を行うには、モバイル端末をインターネットに接続し、画面の指示に従います。送信機が機体にリンクされていない場合はファームウェアを更新できませんのでご注意ください。

⚠
- ファームウェアの更新は必ず上記手順に従って行ってください。手順に従わないと、更新に失敗する場合があります。ファームウェアの更新が完了すると、機体の電源が自動的にオフになります。
- ファームウェアの更新には約 10 分かかります。ジンバルが遅れて動作し、機体ステータスインジケーターが点滅して機体が再起動しますが、これは正常な動作です。更新が完了するまでお待ちください。
- 更新を実行する前に、インテリジェント フライトバッテリーのバッテリー残量が 15% 以上あり、送信機のバッテリー残量が 20% 以上あることを確認してください。
- 更新後、送信機と機体とのリンクが切れる場合があります。送信機と機体を再リンクしてください。ファームウェアを更新すると、メインコントローラーの各種設定（RTH 高度や最大飛行距離など）が出荷時のデフォルトにリセットされることがあります。更新の前に、好みに変更した DJI Fly の設定を別途記録し、更新が完了したら設定し直してください。

アフターセールス情報

アフターサービスポリシー、修理サービス、サポートについては、https://www.dji.com/support をご覧ください。

 © 2021 DJI All Rights Reserved.

DJI サポート
http://www.dji.com/support

本内容は変更されることがあります。

最新版は下記よりダウンロードしてください。
http://www.dji.com/mini-2

本書についてご質問がある場合は、DJI（**DocSupport@dji.com**）までメールでお問い合わせください。

DJI は、DJI の商標です。
Copyright © 2021 DJI All Rights Reserved.